

砂丘に埋もれる希有なネムノキ。30年後は完全に砂丘に埋没する？

## 加賀海岸のハマネムノキ(埋没ネムノキ)

(石川県加賀市 加賀海岸)

2019年、これまで気になっていた加賀海岸の砂丘や、その周辺の植物を丁寧に取材する事となった。全国取材が20年も続いているので、なかなか地元まで手が回らなかったのである。そして、よく知られたイソスミレやハマゴウだけではなく、ハマボウフウ、ネコノシタ、ノハナショウブ、タイトゴメの大群生があることも発見であった。

6月のハマボウフウ、ノハナショウブ等の取材が終わって、真夏の花が咲くまで間が空いた。ところが、7月に入って何か浜に誘う空気を感じたのである。長年、花の取材に集中していると、このようなインスピレーションを感じる事が再三あった。何だろうと、カメラを持って浜に出かけてみた。案の定まだ花は皆無。ところが、帰り際、砂丘に低く咲くネムノキが目に留まった。当初、砂地にネムノキの花が咲いている程度の認識であったが、撮影しているうち、何か変だと感じたのである。ネムノキの花を上から撮影している？ こんな経験は初めてではないか。

そして、翌日、翌々日と丁寧に調査する事となった。判明した事実は、葉は小さく、日中でもすぼみがち。小葉の厚さは厚く小さく、若干、形状が異なる。細い幹は10本から40本群生するように立上がり、樹高30～50cmと低い。花付きがよい。砂丘全体で、150ヶ所もあることが判明したのである。

これは、ネムノキの海浜型変種ではないかと思い、ハマネムノキと命名した。専門家何人かに意見を聞い

たが、なかなか明確な回答は得られなかった。

9月に入って、袋果ができるだろうと調査に出向いた。確かに袋果はできていた。ところが、細い幹にしては袋果が普通の大きさなのである。実に違和感のある状況。もしかしてと、以前掘った所を、さらに深く掘ってみた。すると、次第に根が太くなり、地下50cm程で、30cm離れて立っていた幹と繋がっていたのである。この状況は、根が繋がっていると言うよりは、枝が分岐している状況に見えるのである。そして、確信した。これは、砂に埋没したネムノキであると。目にしていたのは、全体の上部のみであった。

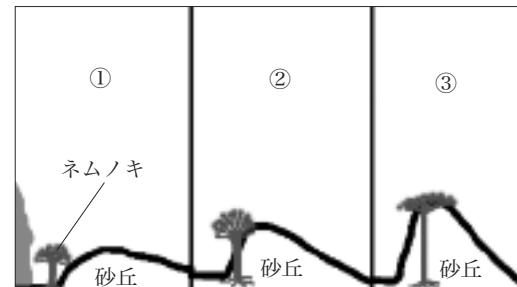
40年前、この砂丘は高い所で3～4m程。上流のダムの影響で、現在6m以上になっている。すなわち、砂丘は成長しているのである。かつて、砂丘と松林の間に生育していたネムノキが、次第に砂丘に呑まれるようになっていく。それと同時にネムノキも生長し、とうとうネムノキが砂に埋もれる状態になってしまった。そして、枝の上部だけが砂丘に顔を出し、花を咲かせるようになった。これが、ハマネムノキの実態で、状態的には砂に埋没しているので、「埋没ネムノキ」とも命名した。

冷静にネムノキが砂浜の上に咲乱れている光景を見ると、実に異様ではないだろうか。

イソスミレ等の海浜植物が、異常な砂の堆積によって消滅しつつある中、ハマネムノキは果敢に生伸びている。しかし、これ以上の堆積によって将来埋没してしまう可能性はあると考える。



ハマネムノキの移行型。ネムノキが次第に砂丘に呑み込まれて行く様子。



図解・松林と砂丘の間に生育するネムノキが、砂丘の生長に伴って、埋もれて行く様子。

